

『生活支援のための認知症介護のあり方』  
人の営みをみるスキルを高めれば  
支援は高まり充実してくる

## この科目の目的と内容

### 目的

我が国の認知症介護の歴史的経過と現在の方向性を把握し、認知症の人の生活のしにくさを捉え、介護の目的、権利擁護、介護することと自立支援の関係について理解を深める。

### 内容

1. 従来の認知症介護の歴史と課題、方向性を明示。
2. 認知症の人の生活障害の確認。
3. 「その人らしく」生活する意味について、介護現場を振り返り、権利擁護の視点から考える。
4. 「自立支援」と介護の関係。

## 1. 従来の認知症介護の歴史と課題、方向性

### 『間違い』

- 何よりも大切に何よりも優先して守らなければならないことが間違っていた
- それは
- 彼らは弱者で、守られるべき人で、介護される対象者であり、その介護や看護の名の管理下におかれているという前提があった⇒つまり、主体が私たちに在る
- しかし
- 毎日の彼らの暮らしの中に、主体者としての存在という前提であった⇒つまり、主体は彼らに在る

## これまで と これから

- さんに～
- さんと～
- さんが～

## 過去に行われてきた介護？

- ◆手間が省けるからと、男性はブルー、女性はピンクの上下スウェットを平気で着させる専門職
- ◆誰が見ていようが場所さえも構うことなく、オムツ交換をする専門職
- ◆おむつを外すからと背面ジッパーのつなぎ服を着せる専門職
- ◆便が出ていることがわかっているにもかかわらず、おむつを交換しない専門職
- ◆ベットに高い柵をつけてその中に放り込む専門職
- ◆自分たちに不都合があるから薬で動けなくしてしまう専門職
- ◆外に出ていけないように、建物に閉じ込める専門職
- ◆井の中にご飯もおかずも薬も放り込んで食べさせる専門職
- ◆立ったまま、何も言わずに食べ物を口の中に放り込む専門職
- ◆できることであっても危ないからとやらせない専門職
- ◆洗髪しやすいからと男女かまわず短髪にする専門職

## 人の姿と認知症

- 姿の捉え方からスタート

どんな姿かと思っているかがその後の関わりや支援(介護・ケア)に影響する

視点(姿の捉え方)は認識を創造し  
認識は経験を創造する

『Doing』から『Being』へ

私達の在り方(Being)ひとつで  
行い(Doing)が変わるのです！

## 2. 認知症の人の生活障害の確認

認知症とは？

## 厚生労働省のHP

- 認知症とは「生後いったん正常に発達した種々の精神機能が慢性的に減退・消失することで、日常生活・社会生活を営めない状態」をいいます。

## WHO(世界保健機関)の定義

- いったん発達した知能が、様々な原因で持続的に低下した状態(年をとってももの忘れがひどくなり、生活に支障が出ること)。
- 認知症とは、通常、慢性あるいは進行性の脳の疾患によって生じ、記憶、思考、見当識、概念、理解、計算、学習、言語、判断など多数の高次脳機能の障害からなる症候群である。
- ごく普通に社会生活を送ってきた人が、主に老年期に慢性の脳機能障害に陥り、判断能力等が異常に低下して社会生活に支障をきたす「認知(知能)障害」です。

## ウィキペディア

- 認知症(にんちしょう、[英](#): Dementia、[独](#): Demenz)は、後天的な脳の器質的障害により、いったん正常に発達した知能が低下した状態をいう。これに比し、先天的に脳の器質的障害があり、運動の障害や知能発達面での障害などが現れる状態は知的障害、先天的に認知の障害がある場合は認知障害という。犬や猫などヒト以外でも発症する。

## 認知症とは(介護保険法上の定義)

(認知症に関する調査研究の推進等)

第五条の二 国及び地方公共団体は、被保険者に対して認知症(脳血管疾患アルツハイマー病その他の要因に基づく脳の器質的な変化により日常生活に支障が生じる程度にまで記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。以下同じ。)に係る適切な保健医療サービス及び福祉サービスを提供するため、認知症の予防、診断及び治療並びに認知症である者の心身の特性に応じた介護方法に関する調査研究の推進並びにその成果の活用に努めるとともに、認知症である者の支援に係る人材の確保及び資質の向上を図るために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

その1

## 脳血管疾患、アルツハイマー 病その他の要因に基づく

原因となる疾患

約70～100

その2

## 脳の器質的な変化により

脳という器が壊れてゆく



その3

## 日常生活に支障が生じる 程度にまで

これまでできていたことが  
できたりできなかったりと  
困難と思える状態へと向かう

その4

## 記憶機能及びその他の 認知機能が低下した状態

知的な能力が変化してゆく

## 認知機能とは

### 記憶の機能

- ・思い出す、覚える機能

### 見当識の機能

- ・時間や場所の見当をつける機能
- ・物の名前を見当をつける機能

### 実行機能(行為／認識／言語など)

- ・生活するための行為  
(着替え・買い物・掃除・料理・トイレの始末等)
- ・言葉で伝えること
- ・字が書くこと
- ・判断をすること
- ・計算をすること
- ・同時に複数の事を行うこと 等々

## 認知症の本質

# 認知症は

複合した認知機能障害の総称を云う。

つまり、認知機能が何らかの要因により変化してゆく状態を云う。

## 認知症とは(介護保険法上からの抜粋)

- 脳血管疾患、アルツハイマー病その他の要因に基づく
- 脳の器質的な変化により
- 日常生活に支障が生じる程度にまで
- 記憶機能及びその他の認知機能が低下した状態をいう。

## 『点』から『線』へ そして『面』への話し

そもそも認知症ってなに？

そもそも認知症ケアってなに？

# お茶を飲むまで

## ～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係～

お茶が飲みたいと思う

正座の状態からテーブルに両手をつく

左足は立てひざを保つ

右の足の裏を床につける

テーブルに置いた両手に体重をかける(この時点で、よっこいしょ!と出る)

左の足の裏を床につける

前傾姿勢を両手で支える

腰を伸ばしながら立ち上がる

台所へ向きを変える

台所へ歩く

お湯を沸かそうと思う

やかんを手にする

やかんのふたをとる

やかんの水を入れる口を水道の蛇口に合わせる

左手にやかんを持ち

右手で蛇口をひねる

水の量を確認しながら適量を入れる

やかんのふたを閉める

## ～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係～

やかんをコンロに置く  
 コンロのダイヤルを回す  
 火力を調節する  
 やかんの様子を気にかける  
 お茶葉のある場所の見当をつける  
 左手で食器棚の扉を開ける  
 お茶葉の入った筒を探す  
 右手で食器棚からお茶葉が入った筒を取り出し置く  
 食器棚から急須を取り出し置く  
 食器棚から湯飲み茶碗を取り出し置く  
 食器棚の扉を閉める

お茶葉の入った筒のふたを開ける  
 筒のふたを左手に持つ  
 右手で筒を持ち  
 筒のふたに適量のお茶葉を入れる  
 急須のふたをとり  
 急須にお茶葉を入れる  
 お湯が沸いたか気にかける  
 お湯の沸き具合を音でも確認する  
 お湯が沸いたかどうか湯気の出具合で確認する  
 お湯が沸いたことを認識する  
 コンロのダイヤルを回し火と止める

## ～「お茶を飲むまで」の思考と認識と行為と感情の関係～

やかんを持ち上げ  
 沸いたお湯を適量急須に注ぎこむ  
 急須のふたを閉める  
 湯飲み茶碗にお湯を適量入れる(湯のみ茶碗を温めるため)  
 やかんをコンロの上に戻す  
 湯飲み茶碗のお湯を捨てる  
 湯飲み茶碗に急須に入っているお茶を注ぎこむ  
 湯飲み茶碗を持つ

居間へ歩く(慎重に歩く)  
 居間のテーブルにお茶の入った湯のみ茶碗を置く  
 両手をテーブルにつき座る(よっこらしょ!と口から出る)  
 楽な体勢になる  
 右手に湯飲み茶碗を持つ  
 左手で底を支える持つ  
 両手で丁寧を持ちゆっくりと火傷しないよう口元に近づける  
 熱さを確認しながら口に注ぎ込み飲む

**『私たちの中で起こっている認知機能の理解』**

～思考や認識や行為や感情の関係の繋がりによって達成される～

- 私達は、普段の生活において、このように細かい思考や認識や行為や感情の関係の連続であることまで考えたり、意識してお茶を淹れない。
- だから、いざ分析してみると多くの人は大雑把に分類することになる。
- しかし、ここで思い出したことは、「お茶を飲むまで」と言う行為は、このように様々な思考や認識や行為や感情の関係の集まりということ。
- その一つひとつが繋がりあって一連の生活動作として、若しくは生命活動として自然にやっけてのけている。

**『私たちの中で起こっている認知機能の理解』**

～思考や認識や行為や感情の関係の繋がりによって達成される～

- 一つの思考や認識や行為や感情を「点」と考えるのであれば、その「点」の一つひとつが出来ると同時に、繋がってはじめて線となり、一つの目的を達成することで、面となり、生活に広がり潤いをもたらしている。
- しかし、この「点」のどこかが、自然の変化である老化或いは、ある種の疾病や障害又は不自由であったり、更に「点」を阻害するような他の力が加わったとしたら果たしてどうなるであろうか。
- 間違いなく目的は達成されず、お茶を飲むことはできないであろう。目的が達成されるどころか、途中で戸惑い、混乱し、不安になるであろう。自分を責める人もあれば、他のせいにする人もいるであろう。

**『私たちの中で起こっている認知機能の理解』  
知る⇒経験する⇒感じる⇒気づく の繰り返し**

- 認知機能の変化によって、生活に不自由を感じる。
- 記憶、見当、実行機能の不自由がその中枢にあるとすれば、「お茶を飲むまで」の一連の思考や認識や行為や感情の關係に不適應な状態をきたす事は言うまでもない。
- ましてや、今までできていたことが出来なくなってゆく様を経験するのは、耐え難い経験とを感じる人もいる。

**『私たちの中で起こっている認知機能の理解』  
知る⇒経験する⇒感じる⇒気づく の繰り返し**

- 様々な不自由に照らし合わせれば、それぞれに違う支援がいる。彼らの不適應を知るということは、生活をベースとした、この一連の思考や認識や行為や感情の關係を分析できる力とそこから彼らの不適應に対する支援を届ける力を持つこと。
- 私たちの専門性とは、「ひとの生活の営みの中で起こる変化」を知り、経験し、感じ、気づくことであり、健全な生命活動の支援につなげてゆくこと。
- 確かに「認知症の理解」も大切だが、その前に「ひとの営みの理解」が先だろうと思う。

3. 「その人らしく」生活する意味について  
介護現場を振り返り、権利擁護の視点から考える

認知症ケアの倫理に関する事例

『おむつ利用に見る自己尊厳』



## 【事例Cさん】の概要

Cさんの認知症のレベルは軽度。パジャマを着る、脱ぐといったことに必要な一連の諸動作もできるし、排泄も自分でできる。

そして、それらの動作にふさわしい言動もできる。しかし、これらの行為を、毎日の一連の行為に連鎖させることができない。むろん言動も、毎日の単位で見るとチグハグで、トラブルも少なくない。その上、Cさんには、多控訴的な傾向がある。

ある時、Cさんは、「眠れないからオムツをさせてほしい」と訴え始めた。原因をいろいろな角度から点検してみたが、今のCさんの状態でオムツをあてるのはまだ早いという結論に行き着いてしまう。医師によると、認知症よりも心気症に対応したケアが必要ということ。

## •【事例Cさん】の結果

- 援助者のみんなで心を一つにして「傾聴」することに決めた。訴えは、執拗に続いた。ある夜、たまりかねた援助者Dは、ゲーム感覚からオムツをすることに同意して、あてる手伝いをした。その日の朝のCさんは、満ち足りた顔をしており、ベッド柵には、オムツが掛けられていた。

しかし、Dが、「ほら、オムツは要らなかったでしょう」と言って始末しようとする手を、「私がいただいたものです。今夜もさせて下さい」と言って放さない。

## 自己尊厳とは

(Independent Autonomy Dignity)

- 自己尊厳とか自己尊重という言葉は、「援助する人」の自立尊重の価値に基づいて相手の自立を指導するというのではない。
- だれもが例外なく思うところの自分の力で自分の思う規範にしたがって自己選択する権利を思い描き「提案する人」だと思ふ。
- 三つの言葉(インディペンデント・オートノミー・ディグニティ)に込められているフィロソフィーをよく理解した上で、日々のケアを見つめてみるといろいろな発見があると思ふ。

## Independent / Autonomy / Dignity

- インディペンデント ~ 独立した、自主の、自治の、自由な、頼らない、自主的な意
- オートノミー ~ 自治、自立、自律の意
- ディグニティ ~ 威厳、尊厳、品位、気品の意

## 事例に体する追記

- おむつは介護用品。
- しかしおむつを着用する主体者の自己ケアを助ける用具。
- 用具は援助資源。資源だから用品本来の使い方を制御するスキルがいる。
- 資源をコントロールするスキルを持っているから援助は多様性をもつリアリティを持てる。
- 手仕事と技術とアイデアとが一つになることが大事なんです。

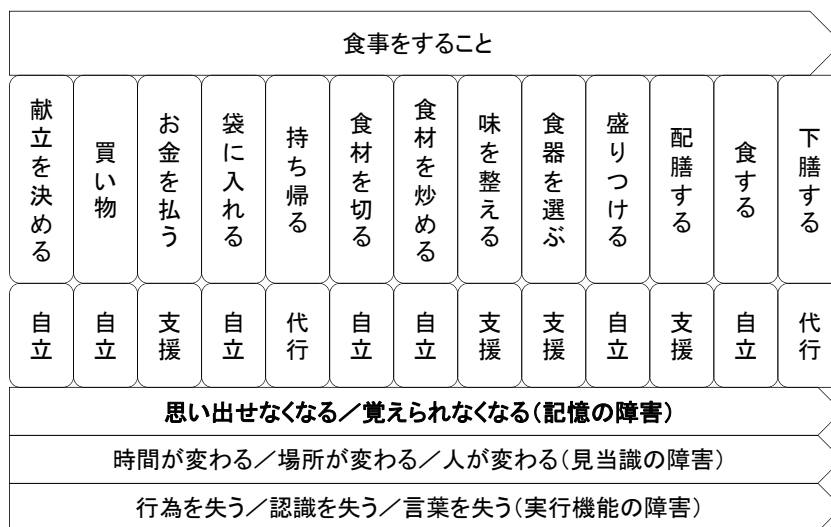
## 4. 「自立支援」と介護の関係

何食べましょうか？

おにぎりにぎりますか？

# 買い物行きましょうか？

生活の支援のポイント 『生活の点の見極めから線へ繋げる(生活の再構築)』  
認知症の状態にある人の生活行為の困りごとと支援の仕組み



## ホウキとチリトリ

『人』と『認知症』を理解し  
その上で  
生活する事に対する  
備えとお膳立て(準備)を怠らないこと

# 生活の営みの中にある 認知機能への支援を充実させる

～認知機能(生活するための機能)への支援～



その有する能力に応じIADL(手段的日常生活動作)への支援

## 手段的日常生活活動(IADL)尺度

### A 電話を使用する能力

1. 自分から電話をかける(電話帳を調べたり、ダイヤル番号を回すなど)
2. 2～3 のよく知っている番号をかける
3. 電話に出るが自分からかけることはない
4. 全く電話を使用しない

## B 買い物

1. 全ての買い物は自分で行う
2. 小額の買い物は自分で行える
3. 買い物に行くときはいつも付き添いが必要
4. 全く買い物はできない

## C 食事の準備

1. 適切な食事を自分で計画し準備し給仕する
2. 材料が供与されれば適切な食事を準備する
3. 準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない
4. 食事の準備と給仕をしてもらう必要がある



## D 家事

1. 家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する(例: 重労働など)
2. 皿洗いやベッドの支度などの日常的仕事はできる
3. 簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない
4. 全ての家事に手助けを必要とする
5. 全ての家事にかかわらない

## E 洗濯

1. 自分の洗濯は完全に行う
2. ソックス、靴下のゆすぎなど簡単な洗濯をする
3. 全て他人にしてもらわなければならない

## F 移送の形式

1. 自分で公的機関を利用して旅行したり自家用車を運転する
2. タクシーを利用して旅行するが、その他の公的輸送機関は利用しない
3. 付き添いがいたり皆と一緒に公的輸送機関で旅行する
4. 付き添いか皆と一緒に、タクシーか自家用車に限り旅行する
5. まったく旅行しない

## G 自分の服薬管理

1. 正しいときに正しい量の薬を飲むことに責任が持てる
2. あらかじめ薬が分けて準備されていれば飲むことができる
3. 自分の薬を管理できない

## H 財産取り扱い能力

1. 経済的問題を自分で管理して(予算、小切手書き、掛金支払い、銀行へ行く)一連の収入を得て、維持する
2. 日々の小銭は管理するが、預金や大金などでは手助けを必要とする
3. 金銭の取り扱いができない

### 認知症ケアの本質

## 認知症ケアとは

認知機能が変化しても  
不適応な状態を発症させない支援

# まとめ

3つの原則(前提)  
3つのステージ  
3つの見極め

## 3つのステージとは

- 1) その認知機能の変化に伴い、うまく生活と折り合いが持てなくなってゆくことにより、起こりうるありとあらゆるズレ(不適応な状態)を、生活をベースに予測し適切に支援するなど、応じてゆくこと。
- 2) その認知機能の変化に伴い、その進行により起こる不適応な状態に対して、ノンバーバル(準言語・非言語的)なかかわり方を必要とする支援の実践を充実させてゆくこと。
- 3) 身体的な機能の変化、疾患的な症状の進行に伴う終末期における緩和的な支援の実践を充実させてゆくこと。

## 3つの見極めとは？

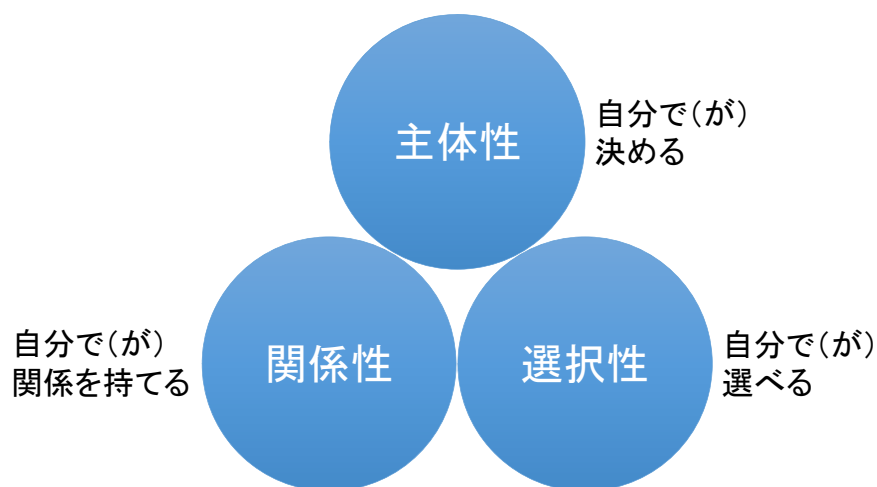
- 1) 認知機能の状態を見極める
  - 記憶に関する状態
  - 見当識に関する状態
  - 実行機能に関する状態
- 2) その人に起こりうる内外的な要因(誘因)を見極める
  - 身体的な変化に対する要因
  - 心理的な変化に対する要因
  - 人間としての存在価値に対する変化に対する要因
  - 環境的(物理的な要因・人間関係的な要因)な変化に対する要因
- 3) その人が何に適応しようとしているのかを見極める
  - これまでとは異なる、日常生活上におけるあらゆる行動・状態

## 5つの支援の具体的展開

- ①心地好く良好な関係づくり(日常的に・な)
- ②支援の前の準備・備え・仕掛けを用意する
- ③仕掛けへの誘い(いざない)・そそり・導き
- ④心地好い展開(ライフヒストリーや嗜好などを活用)
- ⑤心地好い締めと結びと再会の約束(良好な印象づけ)

## 3つの原則(前提)

～『人』がよりよく生きるための条件(尊厳)～



# 総合的な支援が 継続的に展開できること

3つの大前提のもと  
これらの3つのステージの於いて  
3つの見極めを通して

## 出典及び協力をいただいた方々 (敬称略)

資料の提供、引用等、ご協力をいただいた方々

- ・「レビー小体型認知症の世界を共に」  
グループホームアウル登別館 河合千穂 宮崎杉子 篠田茂義  
加藤正之 菊地美里 伊岐見順子
- ・グループホーム アウル 入居者の皆さん

## 参考文献

- ・宮崎和加子／著 田邊順一／写真・文  
『認知症の人の歴史を学びませんか』中央法規出版、2011年
- ・川村雄次 (NHK厚生文化事業団 チーフプロデューサー)  
DVD『認知症ケア』

皆さんお疲れ様でした。  
ありがとうございました。